

AllFusion ERwin Data Modeler 4.1

品質保証レポート

--- 必ずお読みください ---

AllFusion ERwin Data Modeler 4.1 (以下、Erwin 4.1と称す)には、以下のような使用上の制限事項がございます。使用中に何らかの不具合などが発生した場合は、erwin@jsys-products.comへメールでご報告ください。

ModelMart 3.0.2 との連携に関する警告

ERwin 4.1には、ModelMart 3.0.2との連携に関する互換性がありません。ERwinと共にModelMartを使用する場合、引き続きERwin 3.5を使用してください。

使用上の注意

全般

- ▶ ERwin4.1では以下のサイトにおいて修正パッチおよび修正パッチの内容に関する情報が提供されております。修正パッチに関して最新の情報はこちらのサイトをご参照ください。

AllFusion ERwin Data Modeler技術情報サイト: <http://www.caj.co.jp/support/erwin/>

エディタ/ 操作

- ▶ モデル上でビューをコピーして貼り付けると、ビューカラムが空のビューが作成されます。ファイルが破損する可能性があるため、ビューのコピー&ペーストは極力避けてください。

フォワード エンジニアリング/ リバース エンジニアリング、および完全比較

- ▶ Oracleデータベースに対してフォワードエンジニアリングを行い、その直後に完全比較を行うと、[相違点の解決]ダイアログ ボックスで外部キー (FK)のインデックス名がデータベース側にのみ表示されることがあります。この現象はフォワードエンジニアリングを行う際に外部キー オプションを手動でオンにした場合に発生します。Oracleデータベースでは外部キーをインデックスではなく制約として生成するため、このオプションをオンにすると余計なインデックスをOracleデータベース側に作成することになり、その結果モデル側には存在しないインデックスとして表示されることとなります。Oracleデータベースに対してフォワードエンジニアリングを行う際の外部キー オプションはデフォルトでオフになっているため、オンに設定しないでください。
- ▶ Oracleデータベースに対してフォワードエンジニアリングを行う際、モデル上で選択したデータ型はデータベース実装時に以下のように変換されます。

[モデル]	[データベース]
CHARACTER	CHAR
DECIMAL	NUMBER
INTEGER	NUMBER
LONGVARCHAR	LONG
SMALLINT	NUMBER

- ▶ Sybaseデータベースからリバース エンジニアリングを行う際、主キー属性を正しくリバース エンジニアリングすることができませんので注意してください。この問題については将来のバージョンで修正される予定です。

- ▶ 完全比較で選択可能な「シンクロ アクション」グループの比較オプションが、最初に比較する際と戻るボタンで設定画面に戻った時とで異なる場合があります。最初に比較する際に選択できるオプションが有効なオプションとなるため注意してください。
- ▶ デフォルトドメインの定義を変更した場合、対象データベースにOracleを選択して完全比較を行うと、ERwinのドメインが相違点として検出されます。これをエクスポートするとOracleに対して無意味なシンタックスが生成されるため相違点は無視してください。
- ▶ 論理/物理モデル (Classic ERwinモデル) から新規モデルの導出機能を使用して物理モデルを作成し、導出されたモデルと元のモデルでER1同士の完全比較を行うと、変更点がない場合でも相違点検出される場合があります。このような場合、相違点は無視してください。
- ▶ Oracleデータベースからバリデーション ルールをインポートすると、ERwin側に同名のバリデーション ルールが作成されることがあります。これは、ERwinが設計上、同じバリデーション ルールを複数のカラムへアタッチすることを認めていることと、Oracleデータベースがカラムごとに制約 (ルール) をアタッチできる構造になっているために発生する現象です。ERwinはOracleデータベース側のカラムにアタッチされる制約を常にユニークなバリデーション ルールと見なします。つまり、完全比較などで内容に相違点検出された場合には、その都度別のバリデーションとしてインポートします。その時にインポートするOracleデータベースの制約名と同じバリデーション ルール名が存在しても、ほかのカラムにそのルールがアタッチされている可能性があるという理由から上書きはしません。そこで、まったく同じ名前のバリデーション ルールをもつ作成します。ERwinはバリデーション ルールの内容によりアタッチするカラムを判別するため、この状況が発生しても問題はありせん。
- ▶ データベースから相違点として検出された主キー インデックス メンバーをインポートしようとすると、正しくインポートされずに、ダイアグラム上にユニーク キー インデックスが新規作成されます。
- ▶ データベースとの完全比較でテーブル パーティションの相違点検出できませんので注意してください。この問題については将来のバージョンで修正される予定です。
- ▶ データベースとの完全比較で検出されたOracleシーケンスの相違点はインポートすることしかできず、エクスポートできません。エクスポートするには、対象データベースから一度リバース エンジニアリングを行ってダイアグラムを作成し、ファイル同士の完全比較を行って相違点をインポートした後に、シーケンスのみをフォワード エンジニアリングしてください。
- ▶ 物理モデル同士の完全比較を行う際、デフォルトオプション セット内に意味不明な比較項目が表示されます。この不明なオプションは無視してください。

レポート機能

- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際にフォントサイズの指定を行うことができますが、フォントサイズの指定を直接入力により行った場合、指定値が保存されない場合があります。フォントサイズはリストボックスから選択してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際、ダイアグラム上のカラム順序とレポートのカラム順序が異なる場合があります。ダイアグラムと同じ順序でカラムをレポートするには、データ ブラウザ機能を使用してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際、オプションのチェック ボックスやフィルタ機能をオンにしても、オプションが機能せず、レポートが生成されない場合があります。機能しないオプションは、データ ブラウザ機能で補完してください。
- ▶ RTBのレポート生成オプションに同じ項目が重複して存在する場合があります。オンにする場合は、いずれかのオプションをオンにしてください。どちらも有効です。
- ▶ RTBでレポートオプションを選択する際に、選択できないオプションがあります。このような場合は、いったんすべてのオプションのチェック ボックスをオフにしてからやり直してください。
- ▶ RTBを使用してレポートを生成する際に、選択したオプションの数が多い場合や、レポートオプションの組み合わせによってはERwinが異常終了する場合があります。異常終了時にはレポートオプションが保存されないため、レポートを生成する前にRTBファイルを保存してください。

その他

- ▶ モデル名前付けオプションで各オブジェクト名の最大長を指定することができますが、シングルバイト文字/ダブルバイト文字のどちらも1文字として認識されるため注意してください。
- ▶ モデル名前付けオプションで指定可能な特殊文字の取り扱いに関するオプションが機能せず、使用により他の文字列などに悪影響を及ぼす恐れがあるので、このオプションのチェックボックスは常にオフにして使用するよう注意してください。
- ▶ データタイプのマッピング機能でデータ型基準ファイルを開こうとするとエラーが発生し、データタイプのマッピングを行うことができないので、この機能は使用しないよう注意してください。データタイプのマッピングはERwinが内部的に持つ固定のマッピングが適用されます。
- ▶ [フォーマットプリファレンス]ダイアログボックスの[グリッド上にオブジェクトを整理させる]チェックボックスは、オンにしても機能しないため注意してください。

お問い合わせ先

日揮情報ソフトウェア株式会社 テクニカル サポート

TEL: 045-474-7856 (受付時間 10:00 ~ 12:00および13:00 ~ 17:00 土日祝休日を除く)

productsupport@ccgate.jsys.co.jp

<http://www.jsys-products.com/>